

第3種郵便物認可

流通経大×松戸市 地域共生シンポジウム開催

学生が初の学官連携イベントを取材&執筆

幅広く楽しむ「人とのつながり」感じる ポッチャ体験会で笑顔

ポッチャ体験会を訪れた多くの人が「楽しい」と感想を口にしました。子どもから高齢者まで幅広い年齢の来場者が、ポッチャに挑戦した。最初は乗り気でなかった子どもも、ボールを投げて笑っていた。だれでも気軽に楽しめる。それが、パラ五輪の競技でもあるポッチャの特長だ。

まずルールが簡単。ジャックボール(目標玉)と呼ばれる白いボールをコート内に投げ、そこに赤と青のボールをいかに近付けるかを競う。投げ方は自由で、宙に浮かせても転がしても…蹴ってもいい。それぞれ6球ずつを投げ、ジャックボールに最も近付いたボールに得点が入る。そこまで体力を使わず、危険も少ない。だから多くの人が楽しめるわけだ。

私も初挑戦してみた。どんな球筋で投げればジャックボールに近づくかを考え、そのイメージ通りの位置につけられると非常にうれしい。しかし、相手のボールではじき飛ばされてしまう場合もある。それを阻止する細かな戦略が求められ、駆け引きも必要。ルールはシンプルだが、奥が深い競技だった。

もう1つの特長は、「人とのつながり」を感じられる点だった。競技者が投球前に考えていると、周囲で見ている人から「こう投げるといいよ!」などとアドバイスが飛ぶ。対戦相手が助言している場面も確認した。ジャックボールとの距離を確保するには、自然と、皆がコートに膝をついて同じ姿勢を取っていた。年齢や性別が違う人たちと、すぐに距離が縮まったような気がした。

障がいを持つ人も含め、幅広く楽しめる競技ならではの魅力といえる。新しいつながりが広がり、価値観や視点の違いを学ぶきっかけになる。今後私たちが目指す社会に必要な要素ではないだろうか。ポッチャを体験して、そんなことを学んだ。

【平元雅也】



石和田副市長は、松戸市が地域共生社会を進める背景について「高齢者、子育て世代を丸ごと支援する仕組みが必要」「ライフスタイルの多様化によって、3つの居場所が必要になった」と述べた。そのため同市では「松戸deつながるステーション」という学校、

流通経大は10月16日、松戸市(千葉県)と初の学官連携イベント「流通経大×松戸市 地域共生シンポジウム ～みんなのために、ひとりのために、見つけよう、いまでできること。ここ松戸で」を同大新松戸キャンパスで実施した。地域社会の連携、共生をテーマとしたディスカッションや、知的障がい者チアリーディング、ポッチャ体験会などのイベントを実施。この模様を流通経大の学生が取材して、記事を書いた。



地域共生シンポジウムは、「地域共生のまちづくりin大学のあるまち松戸市」をテーマに地域社会との連携、共生について語り合った。登壇者は松戸市町会・自治会連合会の恩田忠治会長、松戸市の石和田二郎副市長、日本知的障がい者チアリーディング協会の稲山敦子代表理事、流通経済大学の龍崎孝副学長。そしてニュースキャスターの膳貴子氏が司会を務めた。

石和田副市長は、松戸市が地域共生社会を進める背景について「高齢者、子育て世代を丸ごと支援する仕組みが必要」「ライフスタイルの多様化によって、3つの居場所が必要になった」と述べた。そのため同市では「松戸deつながるステーション」という学校、



知的障がい者チアリーディングに大きな拍手

知的障がい者チアリーディングが、会場で大きな拍手を浴びた。3人の子どもが、流通経大のチアリーディング部「GLITTERS(グリッターズ)」と一緒にチアリーディングを披露した。7月18日の「海の日アートフェス」ではコーチの補助を受けながらの演技だったが、今回は自分たちだけで、練習で覚えた振り付けを見事に披露した。最後にはグリッターズのメンバーとともに組み技を決めて、会場内を沸かせた。

本番を終えた子どもたちは「緊張したけど、楽しかった」「お姉さんたちみたいになりたい」「またやりたい」と笑顔で話してくれた。今年6月から知的障がい者チアリーディングの体験会が始まり、今回からは子どもとグリッターズと一緒に練習をするようになった。最初は緊張していた子どもたちも、次第に慣れて、楽しそうに踊るようになった。

この日の本番前も、グリッターズのメンバーとハイタッチをしたり、笑顔で言葉を交すなど、マスクをしても子どもたちの楽しそうな表情が伝わってきた。子どもたちを指導するコーチは「グリッターズのお姉さんたちが明るく接してくれたので、子どもたちもテンションが上がって、とてもいい笑顔でした」と話していた。

チアリーディング体験会の活動は、今回の「地域共生シンポジウム」の演技で最後だった。しかし、大学や松戸市のアシストがあり、継続が決まった。今回の演技で自信をつけた子どもたちが、さらなる成長を遂げ、素晴らしい応援と笑顔を届けてくれるだろう。【石崎智也】

ベトナム民族舞踊「バンブーダンス」体験



地域共生シンポジウムでは、「バンブーダンス(Bamboo Dance)」を紹介するイベントを実施した。ベトナムの北西部に伝わる民族舞踊で、3拍子のリズムに合わせ、長い竹の間を上手にステップしながら踊る。ベトナムでも身近な竹を使い、ダンスの文化を生み出した。イベントでは来場者にバンブーダンスを体験してもらった。ダンスでは竹を動かすグループと、踊るグループに分かれ、多くの人が力を合わせて行う。3拍子のリズムを2拍子目から開いてしまったり、3拍子目から開いてしまったり。最初は失敗もあるが、慣れてくると足だけでなく、手も動かしてバンブーダンスの拍子を楽しんでいく。

参加した子どもたちは「ダンスは楽しい」と感想を口にしていた。また、私と同じベトナムからの留学生が伝統的な衣装のアオザイを着て、スワイカやひまわりの種などの菓子を配った。これも好評で「お菓子がおいしい」と笑顔を見せてくれた子どももいた。

バンブーダンスは、ベトナムでは「ニャイサップ」と呼ばれ、季節の変わり目や満月の夜、お正月などに伝統的な祝いの遊び。新年や豊作の願いを込めて、祭りや休日、収穫の日などにダンスをします。現在ニャイサップは北西部にとどまらず、東南アジアや全国の地域にも広がっている。現在ベトナムとベトナムなど、異なる文化がまじり合うことで、1人1人の知識が広がり、異なる世界を受け入れやすくなる。さらにはベトナムの文化を松戸市の人々、さらには日本全国そして世界中に伝えていきたい。【チャン・ティ・トゥオン・トゥオン】

地域共生社会へ、行動に移すきっかけに

職場、家庭とは異なる第3の居場所として、地域の誰もが気軽に利用できる場所を作った。市内15地区のうち4地区で始めており、9地区のうちに進行中という。農業、昔の遊びなどをさまざまな内容を実施している。

稲山代表理事は「学校、職場、家庭以外の居場所は大切」と石和田副市長は「市としては、健常者かどうにかかわらず居場所づくりは必要である」と意見を述べた。また、龍崎副学長は「町会はじめ、老人会、子ども会、民生児童委員等が協力する必要がある」と話した。

シンポジウム最後の質疑応答では、車いすに乗った方が「外出時に道路がバリアフリーではなく、割れていて、危なく、振動などを感じる。通行しやすくなるために

市は何をするのか?という質問をすると、石和田副市長は「すぐに直すように言う」と回答した。こうした場面で市民が施政者へ意見を述べ、登壇者や来場者も共有できることに意義を感じた。松戸市側としても市民の声を直接聞ける機会は貴重だろう。この質問をきっかけに、松戸市のバリアフリー化が進み、安全に生活できるようになってほしい。

またでは「継続のために何をやるか」「大切だからこそ地道に続けていく必要がある」「このシンポジウムが1歩を踏み出す契機になればいい」との意見が出た。今回のシンポジウムが、多くの人が地域共生社会に興味を持ち、行動に移すきっかけになればと思う。

【富樫雄一】

創部7カ月ダンス部が創作ダンス披露

創部7カ月の流通経大ダンス部が、シンポジウムの最後に披露した。披露した作品はすべて学生たちで制作し、音源や振り付けも自分たちで考えたという。作品の題名は「connect and shine(つながりと光)」。

ダンスを通じて、多くの人が今年4月に創設したダンス部は、当初1人の部員で活動していたが、現在の8人まで増えた。コンテポラリーダンスを主に、さまざまな分野に触れながら活動している。初めて学生で創作した今回の作品は、1人1人が意識してできたという成長を感じました」と話していた。さらに練習に励んでいく。【野村俊介】

本番を終えた部員は「一直前まで変えたことも全員がしっかりとできていて、協調性があるなと感じた」「ダンスの経験や技能に差があっても、フレッシュな気持ちで全員がひとつの作品を作り上げました」と話していた。西山友貴監督は「創部して半年がたつてしまってもう1つのチームとしてダンスがもたらした成長を感じました。さらに練習に励んでいく。【野村俊介】

◆流通経済大学 1965年(昭40)開学。現在は5学部9学科5大学院研究科を擁し、学生数は約5200人。4万人を超える卒業生は、ビジネス界はもとより、公務員、教員など多方面で活躍。多くのプロスポーツ選手も輩出している。22年には、硬式野球部が東京新大リーグ優勝、軟式野球部が関東リーグ優勝など、部活動も注目された。また「誰一人取り残さないキャンパス」を掲げ、SDGsやLGBTQなどの課題解決に取り組んでいる。11年から日刊スポーツとのコラボ企画を実施。ジャーナリスト講座などを開設している。新松戸キャンパスは千葉県松戸市新松戸3の2の1、龍ヶ崎キャンパスは茨城県龍ヶ崎市120。上野裕一学長。